

本 治
源 水

砂
防
工
大
意

全

特39

558

066124-000-2

特39-558

砂防工大意

宇野 円三郎/著

M21.8

CDB-0092



特39
558

No 12166



泉



潤



宇堅圓三郎著述

治水砂防五大意見全

申之堂藏梓

特39
558

No 12166



泉

潤



宇賢圓三郎著述

治水
本源
防
大
意
全

申之堂藏梓

於水

明治戊子夏日

正五位高雅



岸

聚而溥則涓滴可以為淵焉養而長
則寸木可以為材焉於宇野君治水之法
也亦將斯叙其意函出於百寸欲擴充
之於世潛心單思勉而不休者則若公之
惠之也及他年得結果其為淵焉材焉

資世用潤民物其功豈鮮少哉乎余

鼓吹待焉

明治戊子七月下澣

松莊多田省撰傳



砂防工は富國の種詩

夫農は國の本也昔より士農工商と分ちありといへども其中に農民ほど貴きものはおしいかんとおれば万物の長たる人を育ふの五穀を作り出だすものおれば也この勳功あるを以て畏くも

天子様より百姓とは大御寶と號け給ふなり實に勿体なき事からばや其大御寶と唱へ給ふゆゑんは百姓といふ者は寒暑霜雪風雨をいとばす笠笠を身に放たば三百六十五ケ日朝より暮に及まで絶間なく農に出て、打出の小槌を使ひつゝ米麥雜穀野菜をと思ひのまゝにうち起し働ぐまに作り出し之を以て万物を養ふゆゑに之に優れる寶はあしとして大御寶とは名づけ給ふならん彼の打出の小槌と

は鉄の事也此鉄を幾萬億と限りなく力一ばあ振あげて春
は耕へし夏は耘り明暮れ倦ます怠らす精を出す農民こそ
拜しても餘りある全く國の大御寶かりたとへば士ありて
も農もくれば立べからば商工も農もくれば何を以て商賣
職業の道として立べきや又近き世は文明開化の域に進み専
ら學校の設あり軍旅の備あり其他種々様々の開化に至れ
ども農なくれば彼の學費軍資の兵糧も何を以て貯へ行ふ
べきや万事万端農もくれば一日も立べからば是に依て之
を思へば農民の貴きは言を俟たざるなり然るに日を積
月を追ひ學なり兵なり商なり工なり年々に進歩と雖と
も第一の國の本たる農民には随分稼業は勤むれとも故
く衰微のいやますはいと歎かしき事ども也概して之を叙

んには過ぎし明治八年前地租改正ならぬ其内は不公平な
る租税にして貧富不當の地租をあげ貧民どもの難澁は以
はんかたかく哀れをもいふべきに其後は人民御撫育の仁
政深き處より王政復古貢法の九一歟また加ふるに十一
ともいふて可からん減租に成りよもや貧者は之に因り一
統安堵を戴くと思ひの外に相違して其田畑も賣放し彼是
家産に離れしは君子の教の届かぬ歟貧者の驕奢のすぎた
るか何分開化のすべりすぎ今の景况續きなば可也に家産
を傳ふ富家も俱にどさくと倒れ行べき兆あり其譯い
かんと尋れば世上一統僭上し道德情を紛失し人の生眼は
ひき抜ても我に利せんとともく狡猾情が増長し惡黨
ものが蔓延し甚したに至りては強盜竊盜日に増て裁判上

が繁雜し少し學問有る人は民權黨じや自由黨何じや角じ
やとして名をつけて表しては勤王愛國と稱へよけれ内實の
腹と口とは大違ひ世を惑して民を誣ひ一己の我欲に日を
暮し世上衰微の種を蒔た國家の爲にかる事は夢にも更に
聞かざれば是等は眞の國賊かり又斯までになき人も兎角
仁義が薄くして國家の爲にかる事が少々見込が有るとも
骨折だてをすは損先きの百より今五十たゞ一身の我欲
にて人目ばかりのさわりよく鄉村貧者の困乏は見知り聞
ても知らぬ顔胸欲心は耻とせ救助の心は毫もなし一村
舉つて倒るれば直さま我身に及ふのも心も附るぞ過ぎゆ
くは實に氣毒笑止なり最早そろく目を覺し俱に利
を取て國危けんといふ事を悟りて互に氣を合せ心正しく

身を持つて富國の道が求めたし依て此度我が岡山縣廳に砂
防工施行規則を設けられ其原因をたづぬれば前に叙べし
農民のみすく疲弊に至れるをいとも歎かせ隣みて仁政
會議が纏りて富國の基礎を開かれき彼れ農は國の本也そ
の大本は山川也又その源は山にあり此山積りて世界を爲
しこれ地球の根元ならぞや山は高く艸木の蕃れるが山の
性なり川は深く流れて流水滞りなきが川の性也近ころ之に
反對し五六十年前よりいつとなく山林の政りごと薄く
て濫りに樹木を伐り荒し名有る高山名嶺まで皆悉く禿と
なふ雨降るとよ其土砂は皆溝川に押出たて所々港や
海灣や津々浦々も皆埋る漁夫まで業度を失へる附ては神
氣薄ければ夏の白雨は稀にして來る年々に早魃と總て農

家の業として梅雨を待て青苗を植てその後は引續た農民男女老幼れ分ちもなしに俱々に夏中脊なかの甲を干し炎る如き日にやけて顔よる汗は逆くだる憂きもつらきもうちわすれ骨を粉にして身を碎き田草取るやら畑うつやら實に苦しき業なれと一途に豊熟々々と天を仰ぎ地に俯して收穫取るを一念に樂しみ暮しその末に例の日照の強ければ果敢なく養水不足して農民一同歎きつゝ互に手間を費やして夜れ目もねぞに水をひき車踏やら争ふやら水れ喧嘩に大騒ぎ實に合戦れごとくなる又其上へに雨乞とて神や佛に祈誓して種々様々に祈れとも曾て靈驗もあらざれば全く旱魃れ災害に野面一圓枯倒れ哀れとも悲しとも歎きても亦限るなき之に變てたましく白雨激る出

る時か且又洪水ある時は彼れ禿山れ谷々に溜る土砂は一時に皆溝川へ押出えて其溝筋れ耕地へは多くれ土砂が溢れこみ邊るれ耕地一圓に地味を失ひそれ中に一俵二俵れ毛を耗らる甚きに至ては流れ續きれ川々は所々堤防を破裂して多くれ耕地家屋まで海乃沖までた流流指向き助けれ術もなく命ちからくにげ回る果して破堤れ強ければ人畜及び鶏や犬猫までも流死して終に死骸も見ぬざるきさてもあはれれ次第なる漸く大水治て其跡かたを知らぶれば耕地れ中に淵ができ川れ中には島が出来目もあてられぬ有様なる夫よる上下れ大騒ぎ種々様々と大評議俄に臨時乃補助方や破損乃跡乃修繕や費額を賦課る夫々に修理方法も纏てて工事やうく竣へぬれと本へ

返らぬ人命と耕地の地味の廢るは幾年立ても戻さやせぬこれ則其土地の永年衰微の基なる此水旱の災害に罹る原因顧みば山の政事の弛きよる各郡村の山林を我儘非道に伐荒し皆禿山と成しよる斯の危嶮に至るを孰も天災と天を怨みて我々の年來弊風懶惰よる目先の日々の小欲が積りて郡村の衰微と國の亡るの必至と成に氣も附かず互に太平顔を志して過ごし行こそ悲しけれ是を此儘捨置けは天災地妖いやま志していかに開化な豪傑の賢人君子が出られても國の富強の道はな志依て此度仁政の砂防の規則を奉戴し各郡々村々に我もくと先立て競ふて工事を施行して成たけ速く掃どれば所々の谷より馳いづる土砂のとまるは見るがうち就ては溝渠あちこちの

所々の小河や大川も次第くと深く成り耕地も漸次に肥たち取買も俱に多くなり三年五年七年と悉ある山も追々に草木蕃り森林の深草山と化したれば夏の夕立降り増えたるたびと四方に潤ひて田畑諸作豊熟し水旱非常の患なく上下冗務の費な志將又所々の海灣や港々も深くなり漕入る船も多くなりて商品運輸の便利よく日々に漁業の獲る魚も思はぞ知らぞ増殖し暴風波濤も静まりて五風十雨の御代となり氣候よければ人民の衛生上も益を増し疫癘諸病の惱苦な志一事が万事國の爲め此理りをよくさとり郡々村々漏なくに懇篤有志の諸君たち多識才知をたたますに力限りの明論をいかにも廣く商議して砂防代施工盛大に國の榮の種蔕を返すくと祈るなり

明治十六年六月

岡山縣

宇野圓三郎謹誌

附言

前陳砂防工施行ノ如キハ實ニ焦眉ノ急務ナリ或人云砂防
工ハ美舉ナリ然レモ百年ノ永遠ヲ謀ルノ工事ニシテ今日
ノ急施ニアラス万民感覺ノ時ヲ待ツヘント圓三郎ハ敢テ
之ヲ可トセス又或人云砂防工ハ美舉ナリサレモ茫漠タル
工業ニシテ該費ニ堪エ難キヲ奈何ト圓三郎ハ亦可トセス

諸君ヨク諒セヨ砂防工ハ緩ニシテハ治ニ居テ亂ヲ忘レサ
ルノ策ナリ急ニシテハ目下ノ危険ヲ防禦スルノ策ナリ又
費額ノ一條ニ至テハ種々無量ノ策アルヘシ第一万民ニ親
シク懇諭感覺セシメ致々汲々トシテ其施工廣大ニ及フ
ハ甲ヨリ出ル課金ハ乙ノ窮民ナル使役者ノ手ニ落ツヘシ
然ルモ目下ニ困苦セル糊口ノ救助トナレリ實ニ之レ仁
政ノ一ナランカ且甲ノ出金者ハ分限相應耕地山林ヲ有ス
ルモ其資産ノ如キ山林ハ倍ス兀骨ヲ現ハン田圃ハ確不
毛ノ地ニ瀕シ各地ノ荒廢收利ノ減額世上ノ衰頹コレ諸君
ノ知ル處ナリソレ砂防工ノ如キ漸次成功ヲ奏スルニ際シ
テハ山林ハ繁茂シ田圃ハ膏腴ノ沃土トナリ收穫ヲ増殖ス
ルニ及テハ曩ニ出セシ甲ナル課金ハ往々幾倍ニシテ其財

主へ復スルノミナラス之レ國家財政上ノ潤益ソノ幾許ナルヲ枚擧スルニ遑アラサス圓三郎ガ斷乎トシテ確認スル所ナリ嗚呼目今世人ノ意見之ニ反セルカ畢竟些々タル課金ヲ厭フテ眼前ノ小利ニ耽リ后年ノ大害ヲ圖ラヌ獨リ今日ノ偷安ヲ旨トシ永遠ノ富強ヲ知ラヌ子孫ノ滅亡ヲ覓ムルノ者ト謂ハサル可カラヌ近來開明ノ域ニ進ミ自由民權ヲ主張シ自己ノ器量分限ヲ顧慮セス徒ラニ虛飾ノ驕奢ニ増長シ眼前ノミヲ視テ后日ノ衰微ヲ知ラサルノ形勢アリユノ砂防工施行ノ如キハ急務中ノ最モ急ニシテ少シモ遲緩ス可カラサルノ秋ナリ如何ントナレハ本年夏兩度ノ暴雨洪水ノ被害剩サヘ同秋暴風怒濤ノ如キ本縣兒島郡福田新田ヲ始トシ其他沿海數里ノ間堤防決潰數万歩ニ及ヒ瞬間

ニシテ夥多ノ家屋耕地人畜ヲ間ハス海底ニ沉淪シ其屍ハ魚腹ニ葬リ僥倖ニシテ生命ヲ免レタルモ死殘ノ人民一時衣食住ヲ失シ父母妻子ヲ流亡シ仰テハ天ニ號ヒ俯シテハ地ニ哭ス夫レ人タル者安ソ之カ爲メニ忍テ慟哭セサランヤ斯ノ如キ悲哀慘澹ノ狀現今衆ノ知ル處ナリ斯ル未曾有ノ天變地異ハ何レヨリ來セルヤコレ全ク天氣ノ不順ヨリ來ラシ歟其不順タルヤ其原因ハ常ニ陽勝ナテ陰乏シキヨリ來ラン乎ソノ陰乏シキトハ何ノ謂ソヤ驕奢增長眼前ニ姑息シ山林ヲ濫伐シ之レカ爲メニ百方山骨ヲ顯シ水源涵養ノ素質ヲ失シ晴雨ノ偏頗ヲ促シ夏節ニ沛雨ヲ起スノ氣運薄ク空氣ノ缺亡ヨリ來タヌノ理ナランカ加之百里ノ島嶼ニ至ルマテ悉ク乾涸シ土砂放流ノ甚シキヨリシテ少シ

降雨アレハ河海汎濫シ古ヘノ小水ハ中水トナリ中水ハ大水トナリテ堤防耕地ヲ害スルコソノ常トナレリ況ンヤ沿海運漕ノ船舶漁業ノ舢舨ニ至ルマテ少シク雲雨ヲ起スヲ見レハ動モスレハ風波ヲ來タシ古來ヨリノ港灣ニ船ヲ止ムル能ハス水夫漁夫等ハ目今大ニ之ヲ歎傷セリ如何ントナレハ四方ノ島嶼曾テ草木風ヲ遮ルノ蔭ナキヨリ暴風屢起リ甚シキニ至リテハ夫ノ怒濤ノ如キ慘酷ノ異狀ニ至レリ嗚呼斯ノ如キ景狀豈慨歎ニ堪ユ可ケンヤ之レ全ク濫伐ノ甚シキニ素因ヲ徵スルニ足ラスヤ加之現今被害者ナルノ救助及ヒ破壞ノ堤塘舊ニ復スルノ修理費賦課方法等ニ至テハ縣下ノ人民實ニ堪ユ可カラサルノ景狀コレ人々慙痛セサルハナシ然リト雖モ四海同胞ノ人民ナレハ前陳ノ

如キ慘狀ニ遭遇スルニ際シテハ假令一タヒ裸體ニ陷ルモ俱ニ俱ニソノ義務ヲ盡サスンハ有ル可カラズ是レ天下ノ通義ナリ之レニ依テ我カ縣廳ニモ其情狀ヲ急ニ奏聞アラセラレ依リテ
勸慮ヲ痛ク惱マサセラレ彼ノ被害者共ヘ許多ノ恤救ヲ下賜サルハ實ニ仁政ノ極ニシテ
天意ノ厚キコト之レ感泣ニ堪ユ可カラズヤ縱ヒ職位ニ居ラサルモ人間ノ面目ヲ具スル上エハ後來ノ災害ヲ恐懼シ万代不朽ノ方法ヲ計リ自國ヲ堅固ニシテ
勸慮ヲ安ンシ奉リ万民ノ安堵ヲ慰セスンハアル可カラズ是レ
天恩萬分ノ一ヲ報スルノ急務ナリトス故ニ圓三郎ハ且ニ

ハ天ニ祈リ夕ニハ地ニ誓ヒ我カ縣下ニ忠愛ヲ盡シ漸次ニ其幸榮ヲ證シ影況ヲ各國ニ及ホシ四海ノ兄弟天長地久至治ノ澤ヲ業ヲレメント欲ス是レ圓三郎カ微衷ナリ嗚呼諸君ヨ圓三郎カ愚意ヲ輔翼シ其工業ヲ盛大ニシ絶タルヲ繼キ廢レタルヲ興スノ意ニシテ國家富強ノ域ニ進メ實ニ愛國ノ真意ニ協ハシメントテ俯シテ乞フ希クハ諸君反復之レヲ補助セシユトナ

因ニ云ソレ造物主ハ三素ヲ以テ万物ヲ生育スルノ糧食トスルニアラスヤ然ルニ今地球上生育力ノ最モ糧食トスル一素ヲ含蓄スル天然ノ山林ヲ濫伐シ舉ツテ砂山ニ属シ山骨ヲ顯シ百方蕃茂ヲ害シ水源ヲ絶テ萬物涵養ノ大基祖タルヲ人トシテ撲滅シ造物主ノ守護

力ヲ消亡ス現今ノ危險ヲ被ムル亦宜ナラスヤ今之レヲ察セス各自天職ヲ紊亂シ驕奢ニ僭シ而シテ富强ヲ願フハ之レ旱田ニ稻ヲ植ヘ畦ヲ荒ラシテ豊熟ヲ俟ツカ如シ所謂木ニ縁テ魚ヲ求ムルノ謂ナランカ諸君ノ忠愛厚クシテ奏功ニ至リナハ是レ用天之道因地之利謹身節用ノ聖語ニ耻シスト誠ニ圓三郎カ精神天ニ誓フテ願ミサル所以ナリ

明治十七年十一月

圓三郎

本編ハ味婦蒙女ニモ能ク通解シ易キヲ旨トシタルモノナ
レハ其不文拙陋ハ先ツ之ヲ閣キ暫ク咎ムルヲ勿レ夫レ方
今ノ形勢往々圓三郎カ愚意ノ如ク的中シ悲歎スヘキハ過
ル明治十三年以來水旱風浪等ノ災害ヲ默計屈指スルニ殆
ント八年間ノ星霜ヲ經過スルモ唯ニ一年ノ無難平穩ヲ視
サルノミナラス非常ノ災害ヲ累テ之カ爲メ民間ノ疲弊如
何ントモ爲スヘカラサルノ場合ニ至ルモ其救濟ノ道ヲ失
シ倍ス貧困ニ陥ラシムルハ豈痛歎大息ノ至リナラズヤ熟
々其本ヲ考フルニ前陳ノ如ク縣下一般山林荒廢シ之カ原
因トナリテ全ク陰陽ノ調和ヲ失シ四季ノ不順ヲ促シ万事
之カ障害ヲ醸生ス故ニ物産ナルモノ天然ノ成熟ヲ得サル
ヨリシテ目下不景氣ノ世態ニ陥リ斯ル災害遁ル可カラ

サルノ形勢ニ立至レリ今之レカ備ヘテ爲サス放任シ去レ
ハ後來ノ天災實ニ知測ス可カラサルモノアリ豈恐ルヘキ
ノ秋ナラヌヤ是レ夙ニ圓三郎カ慨歎措ク能ハサル所ナリ
凡事物トシテ必ス本末ナクンハアラヌ蓋シ其本ハ土地ナ
リ土地アリテノ人民ナリ此ノ人民ニシテ其生ヲ保テ百業
盛大ナラシメント欲セハ先ツ五穀繁殖ノ道ヲ興スヨリ急
ナルハナシ五穀繁殖ノ道ヲ興サント欲セハ治水ヨリ要ナ
ルハナシ最モ之ヲ全フメント欲セハ山林培養ヲ厚クスル
ヨリ先キナルハナシ之レ天下萬物生育スルノ大本源ナリ
万民一致力メテ奮勵セスンハアラヌ而シテ其功ヲ奏シ漸
次ニ其結果ヲ見ルアラハ積年ノ困難轉シテ國家ノ幸榮ト
爲リ路ニ饑饉ナク野ニ凍餒ナク万民塗炭ノ苦ヲ忘レ泰平

鼓腹ノ極ニ至ラン之レ毫モ疑ヲ容レサル所ナリ故ニ將來
安心ノ地ヲ得ントスレハ今ニ方リ活潑奮起セスンハアラ
サルナリ今世開明駸々乎トシテ日々ニ進歩シ既ニ國縣道
路ハ勿論偏僻ノ里道ニ至ルマテ其改良工事續々盛ンニ行
ハレ加フルニ河川改修トテ目今高粱旭ノ兩大川浚濬ニ着
手セラレ且ツ我カ岡山縣地方ヘモ鐵道線路新設ノ企圖ア
ルハ何ノ爲メソヤ實ニ万民カ日用運輸敏捷ノ便利ヲ開キ
國家永遠ノ富強ヲ量ント斯レル前代未曾有ノ美事ヲ施設
セラルニアラヌヤ然ルハ則テ万民ニ於テモ之ニ先タ
テ國家ノ爲メニ一層ノ奮發ヲ興シ第一既往ヲ顧慮シ后年
ノ天災ヲ恐レ其自治ヲ厚クシ日用ノ薪炭用材等ノ度ヲ量
リ斧斤ノ節ヲ制シ山林繁茂ヲ主トシ治水ヲ要シ自然ニ土

砂ヲ扞止レ河川深淺ノ度ニ協ヒテ旱田ヲ潤シ濕地ヲ乾燥
セシメ五穀繁殖ノ道ヲ盛シニセサル可カラズ是所謂大本
源ヲ鞏固ナラシムルナリ苟モ此ノ如クナレハ其他ノ万種
モ亦隨テ殖産セサルハナシ彼ノ運輸ノ如キモ其効力倍ス
盛大ニシテ其福利國益ヲ増進スル期シテ待ツヘキモノア
リ實ニ治水ハ國家ノ命脈ト云フモ敢テ過言ニアラサルヘ
シ俯シテ請フ諸君余カ微衷ヲ裨補シ衆人ヲ誘導シ奮發興
起セシメンコトヲ果シテ其結果ヲ見ルニ至ラハ積年困苦ノ
紓ヲ解キ永遠富強ノ域ニ進マシメ其實功ヲ顯ハシ各自其
業ヲ安シシ總テ課役ノ冗費ヲ消シ物産ヲ増殖シ隨テ其幸
榮國家ニ及ホシ下ハ萬民安穩不變ノ星霜ヲ戴キ上ハ國家
ヲ富岳ノ安キニ置シコトヲ切望ニ堪ヘス

岡山縣

宇野圓三郎敬白

明治二十年九月

明治二十一年八月廿二日印刷

明治二十一年九月十七日出版

版權所有

定價金五錢

發行者

岡山縣岡山區岡山野田屋町貳百三拾六番地
宇野恒夫

印刷者

岡山縣岡山區岡山榮町八番地
西尾吉太郎

